

教育目標 心豊かにたくましく生きる力を育む ～夢中になって遊ぶ子どもの育成～	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・今年度の園内研究において、幼稚園の遊びや生活、地域の方との触れ合いや伝統文化に親しむなど心に響く直接体験を通して、3歳児は安心感、4歳児は主体性、5歳児は協同性と、全ての学年において、発達段階に応じた育ちが確かめられた。 ・これまでから大事にしている地域の方との触れ合いや地域の伝統文化を見直す中で、自然体験、社会体験を通じた感性的な出合いや、それらを先生や友達と共に積み重ねていく幼稚園の生活が、子どもたちの心豊かな育ちにつながることも明らかとなった。 ・保育の中の子どもの育ちや学びを、保護者、地域に伝え、より子どもを真ん中にした幼稚園教育を進められるように模索する。また小学校にも発信し、子どもの育ちがなめらかにつながっていく方法を考えていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・幼稚園での生活と共に地域での様々な体験が子どもの育ちにつながっていることが伺える。子どもたちがより豊かな体験ができるように、次年度もできる限りの支援をしていきたい。（米づくり・芋畑、十石舟乗船の取組など） ・幼稚園生活の中で、子どもたちが自由にのびのびと活動し、保護者も子どもの成長を感じ、安心感をもっていることが感じられる。今後さらに、園の保育の発信を地域や保護者にしてほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年10月30日	学校運営協議会（書面＋聞き取り）
最終評価	令和6年3月14日	学校運営協議会（書面＋聞き取り）

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組 ・子ども一人一人の“感じる・表す”心の動きを丁寧に読み取ったエピソードをもとに、個々の子どもに寄り添う教師の援助や環境構成について話し合う。 ・身近な自然環境を保育室等の環境にも取り入れながら、美しさや心地よさなどそれぞれの感性が揺さぶられるような環境構成や援助をする。 ・子どもの心が動いたり響いたりする「ほんまもん」の体験を大事にし、感じたり思ったりしたことを自分なりに表したくなる環境構成や教師の援助について考える。
--

- ・南浜地域の自然や伝統文化に触れ、親しみをもつ中で育まれる資質・能力について子どもの姿を通して確かめ保育に生かしていく。
- ・保護者の保育参加を継続し、子どもと同じ目線で活動し、心を動かしていただく機会をもつ。その際に子どもの内面の育ちを保護者に伝える。
- ・子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるように、保護者と共に『自立と自律』を育む援助を積極的に行う。

（取組結果を検証する）各種指標

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップの作製に取り組み、個々の育ちを探る

○アンケート項目

『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』

『絵本やお話しに興味をもっているか』

『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』

『「好奇心をもって遊んでいる」と感じる時はあるか』

『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』

『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』

中間評価

○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップの作製に取り組み、個々の育ちを探る

・全教職員で日々の一人一人の子どもの姿や育ちを出し合い、それを保育に生かし、子どもの興味感心や、個に応じた援助や環境構成を行っている。また今年度は、より子どもの内面を深く読み取ることにより視点を当てるエピソード研修に取り組んでいる。その中で、子どもの育ちをより視覚的に捉えることができるエピソードの書き方やマインドマップ作製に取り組み、個々の子どもの内面や育ちを確かめられている。教師のかかわりによる安心感をもとに、発達段階に応じて教師だけではなく気の合う友達、クラスの仲間と友達関係を広げ、遊びを深めたり、思いを出し合ったりする姿が確かめられている。生活面においても、まずは安心感をもとに、それぞれなりに自分の力で生活する姿が多く見られるようになってきている。

・今年度はコロナが5類になったことを受け、保育参観の回数を増やし、子どもの育ちを見て感じる機会を多くもつことができた。また園長講和や学期末のクラス懇談ではICT機器を用いて、視覚的に子どもの姿を伝えることで保護者の理解につながった。

○保護者アンケート

『園生活の中で、様々な成長がみられたか』

『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』

『絵本やお話しに興味をもっているか』

『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』

『「好奇心をもって遊んでいる」と感じる時はあるか』

『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』

『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』

自己
評

分析（成果と課題）

・参観や園長講和などにより、子どもの育ちを直接見たり聞いたりすることで保護者の方の理解につながった。

価	・ICT機器を用いて、視覚的に子どもの姿を伝えることでより保護者の理解につながった。 ・課題としては、生活面での自立に向けて、また絵本やお話への興味の項目については、保護者のわが子に対する評価が他の項目に比べて低い傾向が見られた。改善につなげたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・後半も保護者が直接子どもの育ちを感じることができるよう保育参観の機会をもつ。 ・課題については、保護者との連携をもとに個別にもかかわり、絵本貸出や毎月の絵本配布などの在り方も見直し、絵本を借りやすくするように、絵本室の環境を整備する。また保護者サークルの読み聞かせを預かり保育の場だけではなく、保育の中でも取り入れるなど新たな取り組みを進めていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討を深め、個々の育ちを探る ○アンケート項目 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』 『絵本やお話に興味をもっているか』 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』 『「好奇心をもって遊んでいる」と感じるときはあるか』 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』 『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コロナが5類となったことで、参観や行事の機会が増えたことは、子どもの育ちや保護者の理解につながると思われる。 ・今後も子どもが直接体験を通して豊かに育つことができるように、できることは協力したい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討を深め、個々の育ちを探る ・京都市教育委員会の指定を受け『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業』に取り組む中で、保育を見合ったり、エピソード検討をしたりし、子どもたちが感性的な出会いを重ねられるような保育の在り方、直接体験をする中での子どもの変容を探ってきた。全学年とも、個々にまたはクラスとしての育ちが確かめられ、3歳児は安心感、4歳児は主体性、5歳児は協同性の育ちが明らかとなった。 ○アンケート項目（＊「そう思う」と回答した保護者・教職員の割合） 『園生活の中で、様々な成長がみられたか』（保護者・教職員ともに100%） 『自分の持ち物の用意や後片付けなどを、自分でしようとするようになってきたか』（保護者95% 教職員100%） 『絵本やお話に興味をもっているか』（保護者92%、教職員100%） 『体を動かして、遊ぶことを楽しんでいるか』（保護者・教職員ともに100%） 『「好奇心をもって遊んでいる」と感じるときはあるか』（保護者・教職員ともに100%） 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』（保護者・教職員ともに100%）

『友達や先生と一緒に活動する楽しさを味わう姿が見られるか』（保護者・教職員ともに100%）	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・伏見南浜幼稚園の強みである、地域力、または自然環境・伝統文化を生かすことで、子どもたちが直接体験を通して感性的な出会いを重ねた中で育ちが確かめられた。今後も地域とのつながりを大事にした取組を継続し、教育計画に位置付けると共に、この育ちを小学校にも発信していきたい。 ・コロナが5類となったことで、幼稚園教育や保育の取組、子どもの育ちを保護者や地域の方へ発信する機会を増やすことができた。また日々の取組を毎日ボードに書いて伝えたり、懇談時にはICTを活用し、クラス全体に発信する機会をもったことで、保護者がわが子だけではなく、クラスの子どもたちと共に成長していることへの気づきや理解とつながった。しかし、保護者にとっては、もっと子どもの様子が知りたいという思いは強く、今後もよりわかりやすく、できるだけリアルタイムに保護者や地域に伝える工夫をしていきたい。 ・前期の課題を踏まえ、より子どもたちが絵本に親しむことができるように、保護者サークルの読み聞かせを預かり保育の場だけではなく、保育の中でも取り入れた。子どもの姿からは絵本に親しみをもち、その後も読んでもらった絵本を友達と一緒に見たり、貸出時に借りたりする姿が見られた。子どもの姿を保護者の方にもより伝わる発信の仕方を工夫すると共に、こうした取組を次年度にも継続していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 ・より保育の質が高まるように、保育を見合ったりエピソード検討の機会を増やすだけではなく、他園や外部の研修へ参加する機会を増やしていく。 ・今後も継続して、保護者の保育参加の機会の充実を図るとともに、日常の保育の発信方法の模索を続ける。その際には常に保護者の思い（ニーズや潜在的な願いなど）も丁寧に受け止める。 ・保護者サークルなど、保護者の方にも協力いただき、子どもたちの絵本へのかかわりがより深まるように取り組む。また保護者への発信の仕方を検討する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・子どもの育ちを保護者や教職員が感じることができる取組であり、満足できる結果であった。一人一人の子どもに寄り添う中で、子どもたちが安心して過ごすことができる幼稚園・地域であることを嬉しく感じている。今後さらに地域と子どもや保護者をつなげる役割も幼稚園に担ってほしい。そのための援助を行っていきたい。 ・今年度に引き続き、子どもたちの豊かな体験活動につながる支援を行っていきたい。特に飼育栽培活動、園外保育などの支援などを引き続き行っていきたい。 ・子どもたちが絵本に親しむ機会となるように、保護者サークルとして協力したい。絵本サークルだけではなく、お茶サークルも参画し、日本の伝統文化である茶道体験の協力もしたい。

（２）架け橋期の教育の充実に向けた幼保小連携・接続に関して

具体的な取組 ・継続可能な幼保小交流や連携の在り方を見直し、組織的に計画性をもって連携を進める。 『お米づくり』体験での姿や育ちを幼小で共有し、学びに向かう力と子どもの育ちをつなぐ。 ・幼保小の参観や行事や研修会を通して、互いに学び合う機会をもったり、情報共有をしたりする。 ・保育を公開し、具体的な子どもの姿を通して、幼児期の発達を共有し、滑らかな接続につなげる。

〔取組結果を検証する）各種指標〕

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める）
- アンケート項目
- 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
- 『好奇心をもって遊んでいるか』
- 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

中間評価

各種指標結果

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
 - ・今年度は地域の伝統文化に視点をあて、特に年長児は地域のお祭りやお米づくりに携わる中での育ちを検証している。子どもの心を動かす体験や豊かな自然とのかかわりの中で、自ら興味感心をもち、思いや考えを伝え合い、より深くじっくりと向き合う姿勢につながっている。その5歳児の姿を3・4歳児の子どもは見て感じて憧れをもち、自分たちなりにかかわり、心を動かす姿が見られた。
- 幼小連携、参観や公開保育・合同研修の回数（リモートも含める）
 - ・幼小連携については、昨年度よりも小学校に出かける機会が増え、教師同士・子ども同士の直接のかかわりをもつことができている。今年度は中学校にも出かける機会をもつこともでき、交流の場を増やすことができている。
- アンケート項目
- 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
- 『好奇心をもって遊んでいるか』

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学びに向かう力の中で、『好奇心』『個々の思いの表し（表現力）』の育ちが見られている。
- ・課題としては、交流の機会は増えたが、子どもの育ちをつなげることに視点を当てた研修の機会をもつことができていないので、リモートも含め、研修の機会をつくっていききたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・さらに5歳児では、友達同士の『深め合い』を、4歳児では、友達同士の『伝え合い』を、3歳児では、先生や友達との『関わり合い』を探っていききたい。また地域や保護者との連携を深め、それぞれの子どもの興味や育ちに合致した活動を探ることも大切にしていききたい。
- ・可能な方法での教職員や子ども同士の幼小連携の仕方を探り、実施につなげていく。12月の研究報告会では保育公開などの参加を小学校や地域の就学前施設にも呼びかけ、幼稚園教育や子どもの育ちを発信する場として活用したい。

〔最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標〕

- 「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード
- 幼小合同の研修会、交流活動の実施
- アンケート項目
- 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』
- 『好奇心をもって遊んでいるか』

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・働き方改革の中での無理のない幼小連携の在り方を探り、子どもや教職員の交流を積極的に行ってほしい。 ・南浜地域運学校運営協議会などの機会も活用し、子どもの育ちがつながるように取り組んでほしい。
---------	--

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ・今年度は地域の伝統文化に視点をあて、特に年長児は地域のお祭りやお米づくりに携わる中での育ちを検証した。子どもの心を動かす自然体験や社会体験の中で、自ら興味感心をもち、友達と思いや考えを伝え合い、より深くじっくりと向き合う姿勢が見られるなどの育ちが確かめられた。様々な年齢の子どもたちが共に幼稚園生活を過ごす中で、5歳児の姿を3・4歳児の子どもは見えて感じて憧れをもち、自分たちなりにいかかわり、心を動かす姿が見らるなど、全学年を通しての育ちが確かめられた。 ○幼小合同の研修会、交流活動の実施 ・幼小連携については、後期も昨年度より小学校に出かける機会が増え、教師同士・子ども同士の直接のかかわりをもつことができた。中学校の文化祭見学や、チャレンジ体験などを通した中学生との交流など、中学校との交流の機会も増やすことができた。また『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究事業』の研究報告会では、公開保育や研究報告会に参加を呼びかけ、小中学校の先生方に幼稚園教育や子どもの育ちを発信し、共に学ぶ機会をもつことができた。 ○アンケート項目（＊「そう思う」と回答した保護者・教職員の割合） 『自分の思いを言葉や自分なりの表しで周囲の人に伝えようとしているか』（保護者・教職員ともに100%） 『好奇心をもって遊んでいるか』（保護者・教職員ともに100%）	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・エピソードや保護者の後期評価でも、学びに向かう力の中で、『好奇心』『個々の思いの表し（表現力）』の育ちが見られている。明らかとなった子どもの育ちが小学校につながるように、今年度の取組をカリキュラムマネジメントし、小学校に発信していく。 ・研究報告会を通して、保育を公開したり、幼児教育について共に学ぶ機会をもつことができた。次年度はさらに一歩進んだ連携となるように、持続可能な連携の在り方を探っていく。
	分析を踏まえた取組の改善 ・今年度の取組での育ちからカリキュラムマネジメントしたものを、地域の幼児教育施設や小中学校に発信し、今年度よりも連携が進むように取り組んでいく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・今年度の取組を継続できるように、地域の協力のもとで行うお米作りを通して、幼小がつながり地域のお米文化に親しむ機会となるように支援したい。 ・働き方改革の中での無理のない幼小連携の在り方を探り、子どもや教職員の交流を積極的に行ってほしい。 ・南浜地域運学校運営協議会などの機会も活用し、子どもの育ちがつながるように取り組んでほしい。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組

- ・ 預かり保育担当教員と担任や教職員との情報共有の仕方を工夫して行う。
- ・ 定期的に預かり保育の環境を見直し記録する。
- ・ 定期的に保護者サークルによる読み聞かせをしてもらい、参加者全員で絵本やペープサートを楽しむ時間を設ける。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。
- 『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。
- アンケート項目
 - 『絵本やお話しに興味をもっているか』
 - 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』

中間評価

各種指標結果

- 預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるような機会をもつ。
 - ・ 日々の中で、預かり保育担当や携わっている教員と担任が連携することで、個々の姿を共有し、同じ思いでかかわることができている。特に異年齢の関わりでの育ちについては、預かり保育ならではの育ちが見られ、通常保育の中でも関わりが見られるようになっている。
- 『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。
 - ・ 週案の立案、その日の振り返りを共有し、保育に生かしている。夏季休業中の預かり保育については、熱中症対策を取りながらの室内環境を工夫した。机やいすを設えた絵本コーナーや、子どもと共につくったパーティーションで仕切ったままごとコーナーなど、魅力ある環境となり、参加した子どもたちは楽しく落ち着いた中で過ごすことができた。次年度の指導計画に残していきたい。
- アンケート項目
 - 『絵本やお話しに興味をもっているか』
 - 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 通常保育の中では見られない異年齢同士の関わりの中での育ちが見られ、保護者の喜びにつながっている。
- ・ 環境の在り方については様々に思いや考えを出し合い工夫されたものとなっている。
- ・ 保護者の就労により、利用者は今年度も増加傾向にある。保護者の方の様々なニーズに細やかに応えられるように努めている。迎えの時間が様々となり、担任からその日の様子を伝えることが難しくなっている。全ての保護者の方に伝わる発信の仕方を考えていきたい。
- ・ 預かり保育の利用3歳児が多いので、午睡の時間を設けるなど活動内容や個々に応じた場の設けの見直しを行う必要がある。
- ・ 読み聞かせサークルのことが周知され、参加が増加傾向にある。絵本やお話に親しむ機会としては増えている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 個々の姿や保護者のニーズに応じた預かり保育の在り方を検討する。
- ・ さらに子どもたちが落ち着いて過ごしたり、異年齢児同士が関わったりできるような環境作り

	の工夫を重ねる。 ・週案の立案や記録をもとに、年間指導計画の見直しを丁寧に行う。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ○アンケート項目 『絵本やお話に興味をもっているか』 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・就労していても幼稚園を選択できるようになったことは、地域にとっても大変喜ばしいことである。引き続き、地域にも『預かり保育の実施』について周知できるよう、ポスター掲示や回覧板などの活用をしてほしい。できることは協力したいと思っている。

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ・預かり保育担当と担任が子どもの姿について共有したり、記録などから育ちを確かめたりした。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ・見直したことを週案から見取り、改善につなげることができてきた。 ○アンケート項目（※「そう思う」と回答した保護者・教職員の割合） 『絵本やお話に興味をもっているか』（保護者 92%・教職員 100%） 『預かり保育は子育て支援として役立っているか』（保護者・教職員ともに 100%）
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・異年齢同士の関わりの中で、友達の名前を呼び合ったり、年長児が年下の友達にやさしく関わったりするなどの育ちが見られ、保護者の喜びにつながっている。 ・参加人数に応じて、担当を配置し、落ち着いて過ごすことができる環境を工夫している。保護者の就労により、利用者は今後も増加傾向にある。人数や発達段階に応じた過ごし方を今後も引き続き模索していく。 ・降園時刻が様々なため、担任からその日の様子を伝えることが難しくなっている。子どもの様子を知りたいという思いに応え、全ての保護者の方に伝わる発信として、その日の様子をホワイトボードに掲示するようにした。保護者からも感謝の思いが伝えられている。今後もさらに工夫していきたい。 ・読み聞かせサークルのことが周知され、子どもたちも楽しみにしている。読んでもらった絵本を絵本貸出日に借りる姿も見られ、絵本やお話に親しむ姿につながっている。
	分析を踏まえた取組の改善 ・参加人数や個々の姿、保護者のニーズに応じた預かり保育の在り方を全教職員で検討する。 ・『読み聞かせ』『つくってあそぼう』などのイベントを取り入れ、いろいろな方に親しんだり、経験の幅を広げたりできるような計画を立てる。 ・週案の立案や記録をもとに、期や発達に応じた年間指導計画の見直しを丁寧に行う。
学校関係	学校関係者による意見・支援策 ・『預かり保育の実施』について周知できるよう、ポスター掲示や回覧板などの活用をしてほし

係 者 評 価	い。できることは協力したいと思っている。
------------------	----------------------

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	
・全教職員の連携のもと、一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さずに、適切な援助を行う。 ・乳児期や入園前の保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に先輩ママとの座談会の場を設ける。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など。子育て支援の充実を図り、実践する。 ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。	
(取組結果を検証する) 各種指標	
・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えていく。その際に『内面』の成長にも気付けるよう、ICTも活用する。 ・保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』の場を設ける。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など。子育て支援の充実を図り、実践する。 ・活動計画や具体的な活動内容を、配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。	

中間評価

各種指標結果	
・子ども理解・子育て相談の場としては個別に声をかけ、その時々のお思いに寄り添っていくことで、保護者から相談してこられるようになっていく。また幼稚園説明会ではICTを活用し、非認知能力の育ちの大切さが伝わるように発信することで、幼稚園教育に関心をもつ保護者の姿も見られるようになっていく。 ・『ほっこり子育て広場』『ほっこり座談会』の場を定期的につくる中で、子どもの育ちを喜びあったり、悩みを相談したりできる場となっている。 ・6月より2歳児クラス『ふたば組』・9月より満3歳児預かり保育などを新たな取組を実施している。同じ年齢の子どもが親子で過ごす中で、保護者同士のかかわりができたり、子どもを預けられることでリフレッシュできたりすることなど保護者支援につながっている。登録者数も増えている。 ・活動計画については毎月ホームページやポスター掲示、配布物等で保護者や地域の小規模事業所などに継続して発信している。小規模事業所に通う保護者から関心をもつ声が聞かれている。	
自己 評価	分析（成果と課題） ・2歳児クラスを立ち上げたことは、保護者にご好評をいただき、満3歳の預かり保育を楽しみにされている声が聞かれる。また子育て支援の取組について、小規模事業所の園行事参加を含め、利用者には好評をいただいている。南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとしての役割は、一定果たすことができている。 ・2歳児クラスについては、まだ十分周知ができていないので、配布物などに掲載するなどして地域の親子さんの子育て支援の場として活用していただけるようにしていきたい。

学 校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、地域の子育て支援事業との連携を図り、自園の取組についての周知を徹底する。 ・コロナが5類になったことを踏まえ、在園児の姿を見たり交流したりする機会をつくり、子ども同士がかかわりあう場づくりや、保護者への子どもの発達や幼稚園教育を発信できる機会にしていく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えていく。その際に『内面』の成長にも気付けるよう、ICTも活用する。 ・保護者の子育ての喜びや悩みを出し合える場として、定期的に『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』の場を設ける。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育など。子育て支援の充実を図り、実践する。 ・活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに発信する。
	学校関係者による意見・支援策 ・2歳児クラスや満3歳預かり保育の実施は、未就園児を育てる家庭にとって大きな支援であると思われる。地域に周知できるように取り組んでほしい。運営協議会としても、地域内外の会合で周知していきたい、 ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

最終評価

自 己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・子どもの理解に加え、保護者の思いも十分に受け止め、具体的支援を共に考えると共に、懇談会や講和などでは、園での子どもたちの姿がより伝わるよう、ICTも活用した取組を行った。 ・『ほっこり子育て広場』『先輩ママとの座談会』では保護者同士がつながるきっかけとなったり、子育ての話しをできる場となった。 ・2歳児クラス・満3歳児預かり保育などの取組は、子育て中の保護者の子ども理解や保護者同士の仲間づくりの場となった。また2歳児クラスや満3歳児預かり保育の中で、個々の発達に応じたかかわりが、安心して園で過ごしたり、先生や友達の名前を覚えて親しみをもつ姿につながった。 ・活動計画を配布プリントやホームページなどで保護者や地域の小規模事業所などに継続的に発信し、地域の子育て支援センターとしての一定の役割を果たすことができた。
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・2歳児クラス、満3歳の預かり保育については、子どもの育ち、保護者の支援などに大きくつながった。また子育て支援の取組について、小規模事業所の園行事参加を含め、利用者には継続して好評をいただいている。南浜地域及び周辺地域における子育て支援センターとして今後も継続して取り組みたい。 ・子育て支援の取組を進めることができたと捉えているが、前年度に比べると、利用者数が少ない傾向が見られている。気軽に参加し、親子で楽しく集う場として定着していくように工夫し、発信していく。
	分析を踏まえた取組の改善 ・引き続き、地域の子育て支援事業との連携を図り、自園の取組についての周知を徹底する。 ・在園児の姿を見たり交流したりする機会をつくり、子ども同士がかかわりあう場を積極的につ

	くり、保護者への子どもの発達や幼稚園教育を発信できる機会にしてい
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・2歳児クラスや満3歳預かり保育の実施は、未就園児を育てる家庭にとって大きな支援であると思われる。地域に周知できるように取り組んでほしい。何かわかりやすい掲示物を考えるのはどうだろうか。運営協議会としても、地域内外の会合で周知していきたい、 ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組	
・取組を学区諸団体に運営協議会（きらきらきっず）や行事予定などで発信する。 ・運営協議会を中心として、子どもの活動を持続可能で多様なものにする。（こいのぼりポールたて・幼稚園畑づくり・田んぼ遊び・年間を通したお米づくり・花売りやさん・伏見祭・十石舟乗船・昔遊びなど）その中で、地域の方と子どもたちがつながり、親しみを感じると共に、地域の伝統文化に触れ地域に愛着をもつことができるように年間計画に位置付ける。	
（取組結果を検証する）各種指標	
○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』	

中間評価

各種指標結果	
○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・地域の会合が再開され、その会の中で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信する機会が多くなっている。 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち ・自園の研究テーマ『地域の伝統文化に親しむ』を深く理解して下さり、教職員・子どもへの学びの場づくりに貢献してくださっている。 ・今年度も引き続き小学校2年生との連携事業として『稲の栽培』に取り組んでいる。地域の方の田んぼに何度も遊びに行かせていただくなど、豊かな体験の場を提供してくださっている。また例年に引き続き、さつまいもの栽培も行っている。全園児が、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の名前を覚え、親しみを感じ、見守られている安心感をもつことができた。 ○保護者アンケート ・『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』は93%の保護者がそう思うと回答	
自己評価	分析（成果と課題） ・地域の会合などでの発信から、幼稚園教育に関心をもつ地域の方が増え、運動会にたくさんの来賓が参観にきてくださった。 ・地域の祭りについて学べるような場づくりや資料提供をして下さり、協力体制が強化された ・田んぼを見たり遊んだりできる機会をつくってくださったことは、子どもの感動体験につながった。

	分析を踏まえた取組の改善 ・園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。 ・地域の伝統文化を感じ、親しみを持つことができるように、今後も地域の方のご協力を得ながら、子どもたちの育ちにつなげていきたい。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とそこでの子どもの育ち ○アンケート項目 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・地域の祭りが再開され、子どもたちが参加できるようになったことは喜ばしい。 ・お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行えている。今後も継続して協力したい。

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果 ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・前期と同様に、地域の会合が再開されたことで、その会の中で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信する機会が多くなっている。 ○実践研究を通して、運営協議会や地域の方のご協力の下で行う活動が、子どもの豊かな感性を育むことに大きくつながっていることが確かめられた。 ○アンケート項目（＊「そう思う」と回答した保護者・教職員の割合） 『幼稚園の取組の中で地域や地域の人・伝統文化に親しみをもっているか』（保護者・教職員ともに100%）
	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・地域の会合や実践研究の報告などの発信から、より幼稚園教育や取組に関心をもってくださり、理解が深まった。 ・地域の伝統文化について学べるような機会や支援をしてくださり、より協力体制が強化された ・お米作りでは、長期に渡る支援をしてくださり、子どもの感動体験に大きくつながった。子どもたちの感性の育ちや地域への愛着が深まった。
	分析を踏まえた取組の改善 ・園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、地域に支えられている強みを発信し、新入園児数の増加にもつなげていきたい。 ・地域の伝統文化を感じ、親しみを持つことができるように、今後も地域の方のご協力を得ながら、子どもたちの育ちにつなげていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行えている。こうした支援が子どもの育ちにつながっていることはとても喜ばしいことである。今後も継続して協力したい。 ・お米づくりは小学校2年生で経験する。幼稚園の経験が小学校でも生かされることを期待して

	いる。
--	-----

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標 ・教職員一人一人が自らの健康や生活を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う	
具体的な取組 ・それぞれが自分の担当業務に対して、計画的に進めようとする意識をもつ ・担当が一人で業務を負うのではなく、教職員全体で業務を分担できるように、指示できるような体制づくりや指示伝達方法を工夫する	
(取組結果を検証する) 各種指標 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ○年休や特休などの取得率	

中間評価

各種指標結果 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ・職員会の回数を減らしている中で、情報共有や連絡・連携をしていけるように、ホワイトボードにより細かく連絡事項を記入したり、各自に配布したりするなどして時間短縮できるように取り組んでいる。 ○年休や特休などの取得率 ・必要な時に必要な日数を休むことができている。年休取得率は高くなっている。	
自己評価	分析（成果と課題） ・校務支援員の活用を進められるように、依頼したい作業を書くノートを作成した。 ・研究や行事前などは残業時間が多くなる傾向ある。業務内容をできるだけ分担し、全体で進めていけるように工夫する。
	分析を踏まえた取組の改善 ・継続して効率化できる業務の見極めを行う。（可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図るなど） ・一人一人の教職員が計画的に業務を行ったり、担当者が指示をしたりして、短時間で進行できる工夫を継続する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移 ○年休や特休などの取得率
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な個別の対応や子育て支援、就労支援など、抱える業務は多いと思うが、教職員の心身の健康を大事にしてほしい。効率よく業務を進められるように、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。

価	
---	--

最終評価

	〔中間評価時に設定した〕各種指標結果 ○教職員の勤務時間（残業時間）の推移としては、研究報告会や行事前となると増えてしまうが、全体としては、大きな推移はない。 ○年休や特休などの取得率についても、大きな推移はなく取得することができている。
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ・校務支援員の活用を進め、事務作業は軽減されているが、新たな業務も増えているので、さらに工夫した取組を考えたい。 ・前回に続き、研究や行事前などは残業時間が多くなる傾向ある。業務内容をできるだけ分担し、全体で進めていけるように工夫する。
	分析を踏まえた取組の改善 ・業務を精選、分担していく。自分の役割がわかり、進めていくための方法を模索する。 ・一人一人の教職員が計画的に業務を行ったり、担当者が指示をしたりして、短時間で進行できる工夫を継続する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・様々な個別の対応や子育て支援、就労支援など、抱える業務は多いと思うが、教職員の心身の健康を大事にしてほしい。効率よく業務を進められるように、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。